

～この2年間における眼科医療はさらに進歩しました～

明けましておめでとうございます。

大塚眼科院内誌「ほっとeye通信」は、今回で6号となります。平成23年5月に第1号が発行され、もう1年8ヶ月が経ちました。この2年足らずの間に眼科医療はさらに進歩してきました。

眼底の画像解析装置OCTは、さらにバージョンアップし、自覚症状の出ない緑内障初期の段階の網膜神経線維層の菲薄化を捉えることができるようになりました。また当院においては、一昨年、世界最小の切開幅で手術できる白内障手術装置「ステラリス」（ボシュロム社）を導入しました。1.8mmの切開幅で眼内レンズが挿入できます。また昨年1月、無散瞳で眼底周辺まで撮影できる超広角走査レーザー検眼鏡「オプトス」（Optos plc社）を九州で2番目に導入しました。また昨年12月には、硝子体カッター回転数5000回転/分という最新の硝子体手術装置「コンステレーション」（アルコン社）を導入しました。

さらに、昨年11月に、加齢黄斑変性（当院副院長である野田佳宏先生の専門分野）に対する光線力学療法（PDT）に必要なレーザー装置「Visulas PDT」（カールツァイス社）が念願かなって導入されました。このレーザー装置は大分県では大分大学にしかなく県下では2台目となりました。これにより加齢黄斑変性の治療の幅が大きく広がりました。本号でPDTの解説を野田先生にお願いしました。

今年もスタッフ一同頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。

院長 大塚慎一 記

～加齢黄斑変性に対する新しい治療を2つ導入しました～

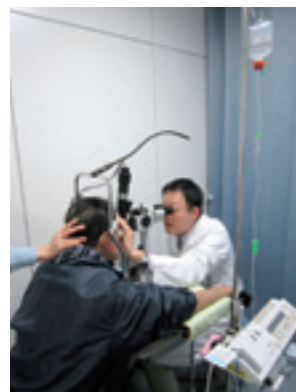
加齢黄斑変性は視力を脅かす眼の病気で、脈絡膜新生血管という悪い血管が出血や浮腫（むくみ）をおこして視力を大きく低下させます。近年、日本でも患者数が増加しており問題になっています。10年前は有効な治療法がありませんでしたが最近では早期の段階（まだ病気が進行していない時期）であれば有効な治療法が徐々に出てきました。当院では今までもルセンティス、マクジェンなどの眼に直接注射する治療を早期に導入して治療を行ってきましたが、平成24年11月に加齢黄斑変性に対する新たな治療を2つ導入しました。

1つは「アイリーア」という薬を眼に直接注射する治療法です。前述したルセンティス、マクジェンと同じように脈絡膜新生血管を薬で抑えていくものです。従来の薬より大きな効果があるかもしれないと期待されています。

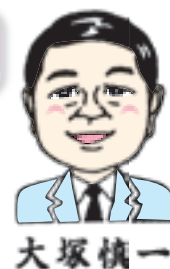
もう1つは光線力学的療法（PDT）というもので、腕からの注射と眼への特殊なレーザー治療を組み合わせる治療を行います。大分県内では大分大学眼科にあるだけでしたので県内2番目の導入ということになりました。光線力学的療法は眼に直接注射する治療が効きにくいタイプにも有効なので薬が効かずに困っている患者さまの助けになるのではないかと期待しています。また、日本では保険適応外ですが中心性脈絡網膜症にも有効性が高いということがわかっています。

当院では今後も患者さまのためによりよい治療を追求していきます。

文責 野田



白内障について (その5)



大塚 慎一

白内障手術症例 一角膜乱視がある場合

前回、乱視のない白内障手術症例を報告しました。今回は乱視のある白内障手術についてお話します。

角膜に生じる乱視を角膜乱視といい、形状により横長の直乱視、縦長の倒乱視、斜めの斜乱視に分けられます(図1)。こういう形状をした角膜を通ってきた外界の光は、眼内、眼外において1つの焦点に定まらず、ぶれていて鮮明には見えません。一般に40才以下では90%が直乱視で、50才を過ぎると倒乱視化が進み、80才以上では逆に倒乱視が70%近くを占めると言われています。

多くの白内障患者さんは、手術後は裸眼で遠方がはっきり見えることを希望しています。一般に、良好な裸眼視力(1.2や1.5)を得るためには、角膜乱視が軽度(1.0^{ジオプター}D以内)であることが必要とされています。しかし、白内障患者さんの約3分の1は角膜乱視が1.0Dを超えています。従って白内障手術患者さんの3人に1人は、角膜乱視を矯正しないと良好な裸眼視力が得られないことになります。

白内障手術患者さんの乱視矯正法には、眼鏡やコンタクトレンズによる方法と手術による方法があります。今回は、2つの手術方法について述べます。1つは、角膜輪部減張切開(LRI)です。角膜のカーブの強い方向の周辺部(輪部)に切開を行い、これを平坦化することで角膜形状を正円に近づけ、角膜乱視を軽減する方法です。もう1つは、最近開発されたトーリック眼内レンズです。角膜乱視を打ち消す度数(円柱度数)を加したトーリック眼内レンズは、白内障手術だけで乱視矯正が可能であり、術後早期から良好な裸眼視力が得られます。

症例を提示します。

【症例1】 74才男性。両眼白内障で視力右眼0.3^{裸眼} (0.6)^{矯正}、左眼0.4 (0.7)。角膜乱視は両眼とも2.0Dの倒乱視がありましたが白内障手術施行。単焦点眼内レンズ(一般の眼内レンズ)を挿入。術後視力は右眼0.7 (1.2)、左眼0.4 (1.0)と改善しました。これを図2のような切開(赤い線)を入れ乱視を矯正(LRI施行)しました。LRI術後の視力は右眼1.2 (1.5)、左眼1.2 (1.2)と両眼とも裸眼視力1.2が得られました。

【症例2】 63才女性。両眼白内障で視力右眼0.3 (0.5)、左眼0.1 (0.6)。角膜乱視は両眼とも2.0Dの倒乱視。これに対し白内障手術を施行。眼内レンズは、トーリック眼内レンズを挿入。術後視力は右眼1.5 (1.5)、左眼1.2 (1.5)。角膜の倒乱視がトーリック眼内レンズで打ち消され、裸眼で右眼1.5、左眼1.2の視力が得られました。

LRIは白内障手術と同時にすることもあります。術後しばらくして(1-2ヶ月後)することが多く、簡便で短時間でできる乱視矯正法です。

「トーリック眼内レンズ」にしても「LRI」にしても、その適応は直・倒・斜乱視などの正乱視のみで、角膜表面が凸凹しているような不正乱視は適応外となります。

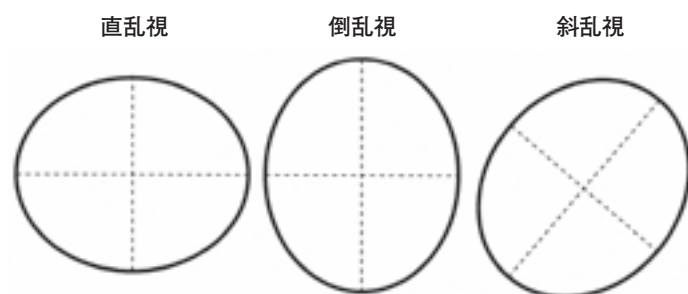
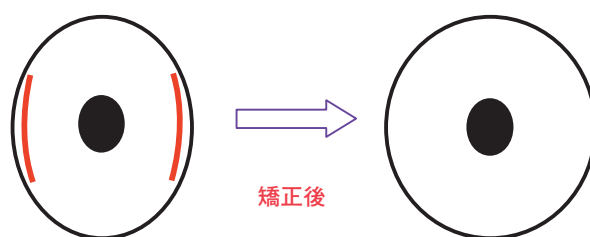


図1 乱視の種類



矯正後

図2 LRI

角膜の張力が変化し楕円が正円に近づき乱視が軽減します

●横井先生講演会

平成24年11月10日、京都府立医大准教授の横井先生による講演が当院会議室で行われました。

学会でもたくさんの講演されている先生で、角結膜疾患、ドライアイの見極めるべきポイントや目薬の処方選択などの疾患の貴重なお話がありました。

分かりやすい説明でとても勉強になりました。



●本の紹介

横井先生が出版されている著書「先端技術が応える！中高年の目の悩み」にも眼の病気の詳しいお話が書かれていて、眼科の知識が豊富になる1冊です。

気になる方はスタッフまでお知らせ下さい。



専門医紹介 5

京都府立医科大学
准教授
横井先生



横井先生は日本角膜学会評議員、日本シェーグレン症候群学会理事、日本涙道・涙液学会の理事、ドライアイ研究会世話人をされており、角膜・結膜・ドライアイ分野では日本で第一人者の先生です。学会などでもオピニオンリーダーとして有名ですが、テレビや雑誌などでも度々「名医」として紹介され、多方面でご活躍されています。大変忙しい中、当院では難しい角膜・結膜の病気の診察や結膜弛緩症という白目の皮が緩む病気の手術を担当して頂いています。横井先生の診察・治療をご希望の方は当院スタッフ・医師までご相談下さい。

●平成24年 当院の学会参加一覧 (9月~12月) ●

9/1	九州黄斑研究会(福岡)	5名	10/14	大分ORT勉強会(大分)	6名	11/2	糖尿病眼学会(福岡)	4名
9/8	大分眼科集談会(大分)	7名	10/17	ファイザーウェブシンポジウム(大分)	4名	11/3	教育フォーラム(福岡)	6名
10/13	オキュラーサーフェイスセミナー(大分)	1名	10/20	ファイザー緑内障シンポジウム(大分)	4名	11/17	第33回産業医大眼科研究会(小倉)	2名
10/13	大分緑内障眼底読影会(大分)	9名	10/26	日本臨床眼科学会(京都)	4名	12/8	ドライアイシンポジウム(福岡)	5名

各専門医日程

当院では全国より各分野の専門の先生を招いて診察や手術を行っています。専門医診察・手術は早い時期で予約が埋まってきますので、診察や手術をご希望の方は、スタッフまでご連絡ください。

1月	2月		3月		4月
12日(土)	2日(土)	16日(土)	2日(土)	11日(月)~13日(水)	12日(金)
眼瞼手術	涙道内視鏡手術	眼瞼手術	涙道内視鏡手術	翼状片手術	硝子体手術
京都府立医科大学 渡辺先生	(岡山)すぎもと眼科 院長 杉本先生	京都府立医科大学 渡辺先生	(岡山)すぎもと眼科 院長 杉本先生	日本医科大学 教授 志和先生	(福岡)林眼科病院 副院長 吉村先生
17日(木)	8日(金)	19日(火)	7日(木)	23日(土)	13日(土)
角膜専門外来	硝子体手術	眼瞼手術	白内障手術	眼瞼手術	硝子体手術
東京大学 教授 天野先生	(福岡)林眼科病院 副院長 吉村先生	(横浜)岡田眼科 副院長 宮田先生	(東京)井上眼科病院 副院長 徳田先生	京都府立医科大学 渡辺先生	大阪労災病院 副院長 恵美先生
18日(金)	15日(金)	23日(土)	8日(金)	23日(土)	27日(土)
緑内障専門外来	硝子体手術	硝子体手術	硝子体手術	網膜専門外来	糖尿病網膜症外来
琉球大学 教授 澤口先生	香川大学 教授 白神先生	大阪労災病院 副院長 恵美先生	名古屋市立大学 教授 小椋先生	東京女子医科大学 教授 飯田先生	東京大学 准教授 加藤先生
19日(土)				30日(土)	
網膜専門外来				網膜専門外来	
東京女子医科大学 教授 飯田先生				三重大学 教授 近藤先生	

避難訓練

平成24年11月12日、従業員の消防対策として、火災報知機、防火道具、排煙装置などの位置の再確認を行いました。

また、足が悪い方、重度の視力障害の方が入院中と仮定した夜間の避難訓練も実施しました。

実施後には参加者全員でディスカッションすることで防災意識を高めました。



新入社員紹介



三宮

私は、3年弱銀行員として営業をしてきましたがその中で当院と出会い、地域眼科診療の枠を超えた診察内容に驚嘆し、このような素晴らしい医療機関にて患者様の力になれることをしたいと思い入社しました。

今後は事務スタッフとして皆様にとって快適な環境作りに努めていきます。

診療時間の案内

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ～ 12:30	大塚 野田	大塚 野田	大塚 野田	大塚 野田 第2木曜日のみ 大塚 中野	大塚 野田	大塚 野田
午後 14:00 ～ 18:00	中野	中野	中野	午後 休診	野田	午後 休診
手術日 (午後)	白内障	白内障	白内障	—	翼状片 眼瞼下垂 内反症	—

※専門医による硝子体手術・緑内障手術・眼瞼手術・涙道手術は随時行っています。

※受付時間は午前7:30～午後5:00までです。

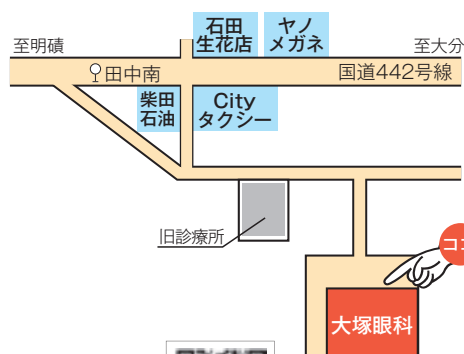
※コンタクトレンズの作製は、予約制となっております。事前に電話にて御予約をお願い致します。



ホームページ紹介



大塚眼科のホームページには院長の挨拶をはじめ、診療時間の案内・手術案内や、交通アクセスなどが掲載されています。



広報部編集委員

野田
(副院長)
井上
氏川
野崎
小野
三浦
本幡

大分市 大塚眼科

検索

インターネットにて検索してみてください

ケータイはこちら

大塚眼科モバイルサイト

